

の特徴と利点を巧みに生かしながら各群の系統進化をあきらかにすることを試みている。いずれの項も力作であって甲乙つけがたく、大変多くの基礎的な、また新しい情報を含んでいる。特に日本列島の淡水魚類研究のうえで欠くことのできない韓国の淡水魚相に関する田 祥麟氏の解説を得ることができたことは、今後の研究の発展を考えて素晴らしいことである。田氏はこれまで何年も韓国の淡水魚の分布をきまこまかく記録し刊行してこられた実績がある。

ここに本書の全てを紹介するわけにはいかないので、全体を概観して簡単に感想を述べてみたい。この本の執筆者は日本の第一線の淡水魚研究者の重要な部分を占める人達なので、魚種に対象を絞って書かれた第二部の各章を調べて見ると次のようなことがわかる。17名の執筆者のうち13名は分布、形態と分類学的研究を基礎として種分化に言及している。また、生態や繁殖の面を重視して論を展開しているものが5篇、アイソザイム解析を重要な手法として用いているものが5篇、染色体や核型を主とするものが3篇、化石のデータを用いたものが1篇あった。我が国の淡水魚研究において、アイソザイムあるいは分子生物学的手法が用いられることが次第に多くなっていることを示しており、種分化の解明が大きな関心を集めている。今後分布や、形態形質の解析、生態の解析に加えて細胞遺伝学的、分子生物学の解析は発生学的解析と共に淡水魚類研究の重要な面となり続けるに違いない。

系統や進化の研究は昔から一筋縄では解決ができないものとされてきた。これまでも多くの異なった分野の研究成果に基づいて進化の機構、進化の道筋が追求されてきた。しかし、一人の研究者が種々の手法を体得できるには自ずから限界がある。そこで一つの手法で徹底的に研究対象を追求するものと、幾つかの手法で追求する研究者とが生じる。研究者の性格によることも多いと思われるが、それぞれに長所と短所がある。また自分が体得した手法以外の方法で他の研究者が発表した研究結果を取り入れ結論を出す場合もあるが、この場合、解釈において適正な“感”が働かないために奇妙な結論に悩ま

されるような場合も生じる。染色体、アイソザイム、化石のデータなども基礎的な理解力を持ち、かなりの経験に基づいて使用しなければならないし、その逆はもっと危険で、対象とする魚類そのものを知らずに核型や系統を論じようとする誤りを犯しやすい。いずれにしても学生時代に多様性に富んだ手法を経験し、体得しておくことが大切なことを、本書を読んであらためて考えさせられた次第である。

先入観にとらわれることなく、客観的に誰でもわかるデータを処理するだけで結論を出したいと思う立場と、科学的体験に基づく“感”と経験を十分に活かしたいとする立場がある。これらの立場の違いによって結論に違いが生ずれば、それはどちらかが正しいか、両方とも間違っているかということになるが、一般的に両極端の立場に立つことは系統や進化を論ずる場合極めて難しい。結果に差が生じた理由を見極めて、より正しいと思われる結論へと進まざるをえないであろう。

この本を読みながら、いろいろなことを考えさせられたが、自ずから反省させられたことも多く、困難を克服しながら淡水魚類の研究をより一層高度なものにする執筆者らの努力に心から敬意を表して紹介を終わらせていただく。
(上野輝弥 Teruya Uyeno)

International Zoo Yearbook, Vol. 26. P. J. S. Olney, ed. 1987. Zoological Society of London, ix + 582 pp. B5 版. ￡39.75 (ソフトバックは ￡35.50).

3つのセクションに分かれ、Section 1では水族の展示法を特集しています。各国の専門家から寄せられた29篇の論文からなり、豊富な図を用いて最新の水族展示法や管理法を論じています。特定の動物の飼育法に関するものもあり、上野動物園水族館からはミヤコタナゴの人工繁殖法についての論文が寄せられています。Section 2は動物園界全般にわたる新技術に関する論文からなり、Section 3はreference sectionで、世界の動物園と水族館の現況、人工繁殖が行われた動物のリスト、飼育されている珍しい動物のリストなどが含まれています。

会 記・Proceedings

昭和 62 年度第 6 回役員会

昭和 63 年 2 月 5 日(金)、於東京水産大学。出席者：岩井、阿部、石山、沖山、黒沼、佐藤、多紀、谷内、富永、松浦、丸山、望月。

議事：1. 決算、予算について検討した。出版費が当

初予算より増加したことについて検討し、来年度は今年度より出版費を増額することにした。事務処理委員会からの100万円につき今年度の雑収入として組み込むことと、第3回魚類国際会議への20万円の寄付が承認された。2. 前回記録の確認をした。3. 報告事項。(庶務)日

本学術会議第 14 期会員選挙への当学会からの候補者等の選出のための選挙の開票経過および上位得票者との折衝経過と、次の通り申請したことが報告された。第 6 部水産学研究連絡委員会 会員候補者 日比谷 京、推薦人 岩井 保、推薦人予備者 沖山宗雄。第 4 部動物科学研究連絡委員会 会員候補者 本間義治、推薦人 新井良一、推薦人予備者 上野輝弥。(会計) 34 巻 3 号の印刷費についての支出を承認した。(編集) 34 巻 4 号は印刷中で、2 月末には出版できる。他に手持ち論文 80 編。35 巻 1 号は 16 編程度になる見通しである。4. 会長選挙についての経過と開票結果について報告があった。結果は以下の通り: 投票総数 40 (内無効 2)、岩井 9、落合 9、沖山 5、尼岡 4、新井 2、多紀 2、ほか 1 票 7 名。この報告にもとづき、岩井会長退席の上、最高得票者が 2 名になったことについてどうすべきか検討した。その結果、どの様に決定するかについていくつかの案を作成し、次回評議員会に諮ることとした。5. 年会における研究発表申し込みが現在 68 件 (内展示発表 7 件) であることが報告された。またその運営について検討し、要旨 1,500 円、懇親会 4,000 円以下、アルバイト 18 名で、一日 6,000 円 (交通費込み、希望者には要旨を配布する)、販売展示料 10,000 円とすることが決定された。6. 評議員選挙の開票をした。結果は以下の通り。

北海道地区 (定数 6 名): 投票数 37 票。尼岡邦夫 (31)、山崎文雄 (22)、仲谷一宏 (15)、高橋裕哉 (14)、疋田豊彦 (13)、山田壽郎 (12)、後藤 晃 (12)。(次点) 久新健一郎 (10)。以下略。

東北地区 (定数 3 名): 投票数 18 票。沼知健一 (7)、佐藤隆平 (6)、井田 育 (6)。(次点) 稲田伊史 (5)。以下略。

関東地区 (定数 23 名): 投票数 72 票。阿部宗明 (47)、上野輝弥 (46)、多紀保彦 (39)、松浦啓一 (36)、中村守純 (35)、沖山宗雄 (35)、高木和徳 (34)、新井良一 (33)、石山礼蔵 (32)、落合 明 (32)、望月賢二 (31)、谷内 透 (30)、J. T. Moyer (30)、林 公義 (28)、富永義昭 (24)、服部 仁 (24)、藤田矢郎 (24)、江上信雄 (22)、隆島史夫 (22)、黒沼勝造 (20)、佐藤寅夫 (20)、日比谷 京 (20)、藤田 清 (17)。(次点) 羽生 功 (14)。以下略。

中部地区 (定数 13 名): 投票数 49 票。本間義治 (38)、鈴木克美 (31)、小坂昌也 (24)、福所邦彦 (24)、上柳昭治 (23)、田村 保 (23)、名越 誠 (23)、久保田 正 (22)、南 卓志 (22)、野中 忠 (18)、鈴木 亮 (17)、小笠原義光 (15)、小野里 坦 (15)。(次点) 木

村清志 (12)。以下略。

近畿地区 (定数 9 名): 投票数 43 票。岩井 保 (31)、荒賀忠一 (25)、中村 泉 (24)、川那部浩哉 (20)、浅野博利 (18)、上野紘一 (16)、田中 克 (15)、原田輝雄 (15)、中坊徹次 (13)、長田芳和 (13)。(次点) 三浦泰蔵 (12)。以下略。

中国・四国地区 (定数 8 名): 投票数 40 票。谷口順彦 (26)、多部田 修 (24)、岡村 取 (23)、水野信彦 (23)、片山正夫 (18)、角田俊平 (11)、笠原正五郎 (11)、高井 徹 (11)。(次点) 青山恒雄 (9)。以下略。

九州・沖縄地区 (定数 7 名): 投票数 43 票。赤崎正人 (32)、道津喜衛 (32)、千田哲資 (22)、木村清朗 (17)、吉野哲夫 (17)、板沢靖男 (16)、水戸 敏 (16)。(次点) 小沢貴和 (15)。以下略。

北海道・近畿両地区の最下位当選者が複数になったため、同数のもの全てを当選とした。そのため当初の定数より各 1 名づつふえ、それぞれ 7、10 名となった。以上の結果、今期の評議員総数は 71 名である。

7. 次期幹事については次期会長の上野氏に原案を作ってもらった上で、次回役員会で検討することとした。

8. その他。

昭和 62 年度第 7 回役員会

昭和 63 年 3 月 10 日(木)、於東京水産大学。出席者: 上野、阿部、新井、石山、沖山、黒沼、佐藤、谷内、中村、松浦、丸山、望月。

議事: 1. 前回記録の確認をした。2. 予算について検討し、原案を承認した。3. 報告事項。(編集) 34 巻は 65 編、545 ページ。35 巻 1 号は 16 編で、印刷に入っている。4. 年会について検討した。研究発表は 71 件、内展示発表は 8 件。第一会場の前の休憩室に移動式黒板をおき、展示場所とする。懇親会は生協に先約があったため、評議員会がおこなわれる部屋へ生協から料理をとっておこなうこととした。そのため人数も多少多く必要であることから、アルバイトは 20 名とする。31 日だけ展示を行う書店は展示料を半額とする。評議員会と総会の議長候補、会場責任者等について検討した。5. 会長選挙結果の取扱についての評議員会への提案文を検討し、決定した。いずれの案にするかは投票による過半数を持って決定し、過半数を得た案が無いときは上位 2 案について再投票をすることとした。6. 会則と細則の改正について検討し最終案を決定した。また、評議員会に諮る申し合わせ事項について検討し、案を作成した。7. 昭和 63-66 年度役員の人事に関する案を検討し、原案を作成した。会費を 2 年間滞納している 28 名につい

て検討し、原案どおり評議員会に諮った上で退会の手続きをとることにした。8. その他。

昭和 63 年度年会

昭和 63 年度年会が、昭和 63 年 3 月 31 日(木)-4 月 1 日(金)に東京水産大学において開催され、以下の会合があった。

1. 昭和 63 年度第 1 回評議員会

3 月 31 日 11:35-12:50, 35 名の評議員と 2 名のオブザーバーが出席し、本間義治氏を議長に選出し、以下の議題で開催された。1. 会長挨拶。2. 昭和 62 年度会務報告。3. 昭和 62 年度編集委員会報告。4. 昭和 62 年度国際会議事務処理委員会報告。5. 昭和 62 年度決算報告・同監査報告および昭和 63 年度予算(案)。6. 会長選挙結果の取扱について。7. 会則・細則の改正と申し合わせ事項の提案。8. 昭和 63-66 年度役員人事に関する提案。9. 会費滞納による退会者について。10. その他。最後に新会長からの挨拶があった。

以上の提案のうち、6 の会長選挙結果の取扱については、本会で投票がおこなわれ、役員会から提案した案のうち第 2 案が可決された。その結果 2 名の最高得票者を被選挙人として、旧評議員による再投票によって決定することとなった。またこれにより細則第 4 条は 3 案のうち第 2 案とすることが決定され、また申し合わせ事項として提案された 4 案のうち第 2 案の会長選挙結果に関する事項が取り下げられた。また 7 の会則・細則の改正については、会則第 5 条の 1 の会長に関する事項の表現を本年度さらに検討することを条件に原案どおり承認された。以上の点を除き、提案された議案は原案どおり承認された。また、最後に魚類学上顕著な業績に対する授賞を行うようにすべきであるとの提案があったが、審議する時間もないため、役員会で検討の上評議員会に諮ることとした。

評議員会申し合わせ事項(昭和 63 年 3 月 31 日承認): 1. 評議員の定数は原則として各地区の個人会員 20 名に 1 名の割合で選出するものとする。この申し合わせは次回改選から有効とする。2. 従来、改選直後の年会の際に開催される第 1 回評議員会、同編集委員会は旧評議員、旧編集委員により行われていたが、選出が完了していることと、新年度の第 1 回の会であることを考慮し、次回改選時から新評議員、新編集委員により行うものとする。また編集委員長はその第 1 回編集委員会で選出するものとする。3. 論文印刷費が 2 年以上滞納の場合は原則として投稿の受付をしない。

2. 昭和 63 年度第 1 回総会

3 月 31 日 13:05-13:30, 35 名出席。千田哲資氏を議長に選出し、以下の議案が審議・報告された。1. 会長挨拶。2. 昭和 62 年度会務報告。3. 昭和 62 年度編集委員会報告。4. 昭和 62 年度国際会議事務処理委員会報告。5. 昭和 62 年度決算報告・同監査報告および昭和 63 年度予算についての報告。6. 会長選挙結果についての報告。7. 会則の改正の提案・細則の改正と申し合わせ事項の報告。8. 昭和 63-66 年度役員人事についての報告。9. 会費滞納による退会者についての報告。10. その他。最後に新会長からの挨拶があった。

このうち会則の改正については、賛成 29 で原案どおり可決された。

3. 研究発表会

会期中、第 1 会場、第 2 会場、展示発表会場に分かれ研究発表がおこなわれた。第 1 会場は 3 月 31 日 9:00-11:30, 13:30-17:00, 4 月 1 日 9:00-12:00, 13:30-16:30, 第 2 会場は 3 月 31 日 9:00-11:30, 13:30-16:00, 4 月 1 日 9:00-11:00, 展示発表は 3 月 31 日 9:00-17:00, 4 月 1 日 9:00-16:30 にわたっておこなわれた。発表された研究は下記の 70 題で、参加者は 3 月 31 日約 200 名, 4 月 1 日約 150 名であった。

Papers Presented at the XX1st

Annual Meeting, 1988

(March 31 to April 1, 1988)

- Teruya Uyeno: Changes of fish fauna from Cretaceous to Tertiary in Japan.
- Akira Chiba and Yoshiharu Honma: Comparative anatomy of the meninx primitiva in the Japanese cyclostomes.
- Sho Tanaka: External and skeletal features in the embryos of the frilled shark, *Chlamydoselachus anguineus*.
- Takashi Asahida and Hitoshi Ida: Variation found in genome size and karyotype in order Squaliformes.
- Kiyonori Nishida and Kazuhiro Nakaya: Taxonomy of *Dasyatis matsubarai* Miyosi, 1939.
- Yoshitaka Yabumoto: Pleistocene clupeid and engraulidid fishes from Kagoshima Prefecture, Japan.
- Hirotochi Asano: The fishes of the genus *Rhechias* from Japan.
- Yoshiharu Honma, Shigeki Hirano and Akira Chiba: Neurons and ependymal cells in the ventricular wall of immature salmon as revealed by electron microscopy and rapid Golgi impregnation.

- Mutsumi Nishida, Yasumasa Sawashi, Shinsho Nishijima, Mikio Azuma and Haruhiko Fujimoto: Genetic and morphological characteristics of the ayu (*Plecoglossus altivelis*) in Yaku Island with reference to the distribution range of the Ryukyu form of ayu.
- Tetsuji Nakabo, Naomi Shiratori and Michio Omori: First Pacific occurrence of *Lipogenys gilli* (Notacanthiformes: Lipogenyidae) from off Sanriku, Japan.
- Kenji Mochizuki and Shojiro Fukui: Diversity and replacement of upper jaw teeth in gobiid fishes of Sicydiaphiinae from Puerto Rico.
- Shojiro Fukui and Kenji Mochizuki: Development of jaw teeth with growth in a gobiid fish *Sicydium* sp. from Puerto Rico.
- Kenji Saitoh, Hiroshi Fujikawa and Yoshikazu Nagata: *Acheilognathus tabira* collected in Ohara River, Oda, Shimane Prefecture.
- Nobuhiro Suzuki and Sang-Rin Jeon: Phylogenetic position of *Acheilognathus yamatsutae* and *Rhodeus uyekii* from Korea.
- Masakazu Watanabe and Kenya Mizuguchi: On the two types of the dark chub (*Zacco temminckii*) —I. Morphology.
- Kenya Mizuguchi and Masakazu Watanabe: On the two types of the dark chub (*Zacco temminckii*) —II. Distribution.
- Tsunao Nakajima and Peiqui Yue: Morphogenesis of the pharyngeal teeth in the Chinese carp, *Aristichthys nobilis*.
- Teruyuki Nakanishi and Hiroshi Onozato: A histocompatibility analyses in gynogenetic triploid ginbuna, *Carassius gibelio langsdorfii* collected from Okushiri Island.
- Tokimasa Kobayashi and Tsutomu Haryu: Genetic differences of scarlet crucian carp and crucian carp, *Carassius auratus langsdorfii* from Lake Harutori in Kushiro.
- Atsushi Suzuki, Yutaka Akai, Motoou Mochizuki and Yasuhiko Taki: Chromosomes and DNA contents of Japanese and Eurasian fish family Cyprinidae.
- Yutaka Akai and Masahiro Aizawa: A cobitid fish, *Paramisgurnus* sp. collected from Saitama Pref., Japan.
- Makoto Nagoshi, Seiichi Mori, Katsutoshi Watanabe, Sang-Rin Jeon and Yoshitaka Shimizu: Morphological revision of two bullheads *Coreobagrus ichikawai* (from Japan) and *C. brevicorpus* (from Korea).
- Midori Kobayakawa: Morphology of *Ceratoglanis scleronema* and *Hito taytayensis*, and the relationships with other genera of the family Siluridae.
- Takashi Urano: Osteological study of South-American catfish *Aspidoras fuscoguttatus* (Callichthyidae).
- Hiromitsu Endo and Osamu Okamura: First record of *Coryphaenoides armatus* complex from Japan.
- Izumi Kinoshita, Shinji Fujita, Isao Takahashi and Kensaku Azuma: Geographical comparisons in morphology of larval and juvenile *Lateolabrax japonicus* from southern Japan.
- Kouichi Kawamura, Hisashi Sakamoto and Masaru Tanaka: Osteogenesis of *Lateolabrax japonicus*.
- Yoshiaki Tominaga: Internal morphology and relationship of the percoid genus *Schuettea*.
- Kunio Sasaki: Interrelationships of the *Stellifer* group (Sciaenidae).
- Keiichi Sakai and Tetsuji Nakabo: Taxonomy of the genus *Kyphosus* (Kyphosidae) found in the waters of Japan.
- Hirokazu Kishimoto, P. R. Last, Eiichi Fujii and M. F. Gomon: Revision of a deep-sea stargazer genus, *Pleuroscopus* (Pisces: Uranoscopidae).
- Akira Goto and Tadashi Andoh: Genetic divergence between the sibling species of river sculpins, *Cottus amblystomopsis* and *C. nozawae*, and their intra-specific differentiation.
- Mamoru Yabe and Shuka Maruyama: An undescribed species of the genus *Radulinopsis* (Cottidae) from Abashiri Bay, Hokkaido.
- H. K. Mok and H. J. Chang: Monophyly and sister group of the Pleuronectiformes.
- Kunio Amaoka and D. A. Hensley: A redescription of *Pseudorhombus megalops*, with comments on *Cephalopsetta ventrocellata*.
- Kazuo Sakamoto and Teruya Uyeno: Pleistocene pleuronectid fish of the genus *Hippoglossoides* from Togane, Chiba Prefecture, Japan.
- Keiichi Matsuura and J. R. Paxton: A review of the Australian spikefishes (Triacanthodidae).
- Toshiro Saruwatari and Muneo Okiyama: Annual variability in the reproductive traits of the Shirauo (*Salangichthys microdon*).
- Koji Maekawa and Teruaki Hino: Spawning behavior of Dolly Varden, with special reference to the number of times of spawning of female.
- Takeshi Kanda: Parental behavior of the eeltailed catfish *Plotosus lineatus*.
- Kunihiko Yamamoto and Yoshihiro Shirai: Spawning behavior of the tubenout, *Aulichthys japonicus*, in an aquarium.
- Seiichi Mori: Nest site characters of the three-spined stickleback, *Gasterosteus aculeatus* (*leirus* form).
- Syozo Hioki, Yoichi Tanaka, Katsumi Suzuki, Tomoyoshi Aihara and Ikuko Nagashima: Reproductive behavior, egg and larval development, and sex succession of the hermaphroditic pomacanthine, *Genicanthus watanabei*, in an aquarium.
- Yoichi Tanaka, Syozo Hioki, Katsumi Suzuki and Naoki Mizutani: Reproductive behavior, egg and

- larval development of the pomacanthine, *Centro-pyge ferrugatus*, in an aquarium.
- Makoto Sakurai and Akinobu Nakazono: Territoriality and mating behavior of the surfsperch, *Ditrema viridis*.
- Takuro Shibuno, Kenji Gushima and Shunpei Kaku-da: Spawning sites of primary males *Halichoeres marginatus*.
- Masaru Nakamura, Hiroya Takahashi and K. S. Cole: Ultrastructure of testis and seminal vesicle in the bluespotted goby, *Asterropteryx semipunctatus*.
- Hiroyuki Munehara: Reproductive habit of the cottid fish, *Hemirhamphus villosus*.
- Akihiko Shinomiya, Takazumi Kozaki and Kenji Funakawa: Spawning habits of the marine sculpin, *Pseudoblennius percoides*: Recognition of the host ascidians and the timing of fertilization.
- Osamu Katano: Home range and foraging of the dark chub, *Zacco temminckii*.
- Tadashi Kubota, Hidetake Aoki and Mitsuyasu Imazu: On the morphological characters and diets of a lanternfish, *Diaphus gigas*, from Suruga Bay, Japan.
- T. Hourigan: The feeding behavior of two species of butterflyfishes (family Chaetodontidae).
- Yasunobu Yanagisawa: Feeding activity of mouth-brooding females in *Tropheus duboisi* and *T. moorii* (Cichlidae).
- Yasunori Sakurai and Kaoru Kido: Feeding behavior of *Careproctus rastrinus* (Liparididae).
- Keiichirou Iguchi: Sign stimuli releasing aggressive behavior of Ayu, *Plecoglossus altivelis*.
- Shigeru Nakano: Intra- and inter-specific dominance hierarchy of Japanese charr and masu salmon in a mountain stream.
- Izumi Kinoshita and Masaru Tanaka: A discussion on the mechanism of accumulation toward the surf zones in larval *Acanthopagrus shlegeli* and comparison with larval *Pagrus major*.
- Katsunori Tachihara, Seiro Kimura, Akihiko Shinomiya and Sadahiko Imai: Development of aggressive behavior of Japanese perch, *Coreoperca kawamebari*, with its growth.
- Genjiro Nishi, Hidenao Abe, Masahiko Kawazoe, Tomoaki Sato and Fumio Maeda: Activity rhythm of the Japanese wrass, *Halichoeres tenuispinnis*, in captivity with acrylic sandy bottom.
- Masatsugu Chikasue and Yasunobu Yanagisawa: Seasonal change in the symbiotic relationship between the cleaning fish *Labroides dimidiatus* and its host.
- Yuji Sawara: A comparison of the free-running activity patterns of the juvenile *Chasmichthys gulosus* from areas of different tidal modes.
- Yoshiharu Honma and Naohide Isono: Review of four volumes of "Gyorui-Zufu" in part of "Ryou-Hakubutsu-Zufu" written by Taneyasu Matsumori (1825-1892).
- Toshiro Saruwatari, Yasuki Shioya, Tadashi Kubota and Muneo Okiyama: Ichthyofauna and its seasonal variation of the brackish lake Hinuma.
- Yuya Saito and Hikaru Kanazawa: Distribution and disappearance of *Salvelinus leucomaenis* in the basal zone of the Kanto mountain range.
- Tomoyuki Nakamura, Takashi Maruyama and Eikichi Nozaki: Population growth of *Salvelinus leucomaenis* Pallas observed in the Tedoru River system, Ishikawa Prefecture, after the recent introduction of a fishing prohibition.
- Hiroshi Senou and Muneo Okiyama: Geographical distribution of the mullets (Pisces: Mugilidae).
- Hirokazu Kishimoto, Masayoshi Hayashi, Hiromi Kohno and Osamu Moriyama: Review of the batfishes *Platax* from Japan.
- Katsumi Tsukamoto, Yasuki Takasago, Keiji Suzuki, Machiko Oya and Muneo Okiyama: Daily growth increment in otolith of the ice goby, *Leucopsarion petersi*.
- Tetsuo Yoshino and Yoshimasa Aonuma: Review of the genus *Priolepis* (Pisces: Gobiidae) from Japan.

4. 昭和 63 年度第 1 回編集委員会

4 月 1 日 12:00-13:00, 編集委員 18 名が出席し, 編集上の問題について審議・検討した。

5. 懇親会

3 月 31 日 17:30-19:30, 96 名が参加し, 盛況のうちに親睦と意見の交換が行われた。

会 員 数

(昭和 63 年 3 月 3 日現在)

	国内	国外	計
個人会員	892 (-3)	196 (0)	1088 (-3)
名誉会員	1 (0)	1 (0)	2 (0)
団体会員	63 (-1)	—	63 (-1)
賛助会員	5 (-1)	—	5 (-1)
購 読	116	117	233 (-6)
寄 贈	9 (0)	12 (+2)	21 (+2)

(個人会員数の推移)

昭和 57 年度	国内 913	国外 144
昭和 58 年度	国内 935	国外 148
昭和 59 年度	国内 956	国外 151
昭和 60 年度	国内 971	国外 185
※昭和 61 年度	国内 895	国外 196

(※会費長期滞納者の整理をおこなった)

会 記

会費未納で退会予定の 28 名を引くと国内個人会員は 864 名である

日本魚類学会 昭和 62 年度収支決算

(自 昭和 62 年 3 月 1 日 至 昭和 63 年 2 月 29 日)

収入の部 単位：円

科 目	62 年度 予算額	62 年度 決算額	予一決
会 費	6,855,000	7,093,318	-238,318
正会員会費	5,544,000	5,708,000	-164,000
団体会員会費	729,600	676,800	52,800
賛助会員会費	171,000	140,000	31,000
国外会員会費	410,400	568,518	-158,118
購 読 料	1,385,280	1,413,900	-28,620
国 内	720,000	741,150	-21,150
国 外	665,280	672,750	-7,470
Back No. 収入	250,000	194,594	55,406
広 告 料	100,000	97,500	2,500
著者負担印刷代	850,000	1,176,921	-326,921
学会補助金	2,040,000	2,040,000	0
雑 収 入	350,000	1,361,428	-826,921
入 会 金	45,000	29,000	16,000
名簿作成積立金 とりくずし収入	0	0	0
会誌発行引当金 戻し入れ収入	510,000	510,000	0
計	12,385,280	13,916,661	-1,531,381
前年度繰越金	2,732,192	2,732,192	0
合 計	15,117,472	16,648,853	-1,531,381

雑収入のうち 1,000,000 円は国際魚類会議より

支出の部

科 目	62 年度 予算額	62 年度 決算額	予一決
会誌発行費	7,000,000	7,653,169	-653,169
名簿作成費	0	0	0
編 集 費	800,000	800,000	0
会誌発送費	580,000	536,780	43,220
役員会合費	20,000	3,130	16,870
年 会 費	400,000	395,240	4,760
シンポジウム費	120,000	120,000	0
消 耗 品 費	20,000	2,790	17,210
通 信 費	600,000	435,229	164,771
諸 印 刷 費	300,000	269,308	30,692
人 件 費	0	5,000	-5,000
交 通 費	90,000	23,280	66,720
業務委託費	1,900,000	1,980,934	-80,934

会 員	1,300,000	1,380,934	-80,934
会 計	600,000	600,000	0
什器備品費	30,000	68,780	-38,780
協 賛 金	20,000	0	20,000
雑 費	400,000	268,967	131,033
予 備 費	100,000	185,720	-85,720
会誌発行引当金	510,000	510,000	0
名簿作成積立金	100,000	100,000	0
計	12,990,000	13,358,327	-368,327

次年度繰越金 2,127,472 3,290,526 -1,163,054

合 計 15,117,472 16,648,853 -1,531,381

貸借対照表

(昭和 63 年 2 月 29 日現在)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
預 け 金	2,271,358	未 払 金	0
小 口 現 金	99,893	前 受 会 費	113,200
未 収 入 金	375,551	会誌発行引当金	510,000
立 替 金	166,924	名簿作成積立金	200,000
定 期 預 金	1,200,000	次年度繰越金	3,290,526
		（前年度繰越金）	2,732,192
		（今年度剰余金）	558,334
合 計	4,113,726	合 計	4,113,726

財産目録

(昭和 63 年 2 月 29 日現在)

資産の部

科 目	摘 要	金 額
流動資産		
預 け 金	(財)日本学会事務 センター	2,271,358
小 口 現 金	幹 事 手 許 金	99,893
未 収 入 金		375,551
	（ 広 告 料 著者負担印刷代	（ 90,000 285,551
立 替 金	学 会 誌 別 刷 り 代	166,924
定 期 預 金	日 本 信 託 銀 行 銀 座 支 店	1,000,000
固定資産		
定 期 預 金	日 本 信 託 銀 行 銀 座 支 店	200,000
合 計		4,113,726

負債の部

科 目	摘 要	金 額
流動負債		
未払金		0
前受会費	昭和63年度分会費	113,200
会誌発行引当金		510,000
固定負債		
名簿作成積立金	昭和61, 62年度積立分	200,000
合 計		823,200

繰越金

科 目	金 額
前年度繰越金	2,732,192
今年度剰余金	558,334
合 計	3,290,526

日本魚類学会 昭和63年度収支予算

(自 昭和63年3月1日 至 昭和64年2月28日)

収入の部

単位：円

科 目	62年度 予算額	63年度 予算額	
会 費	6,855,000	6,964,800	
正会員会費	5,544,000	5,670,000	900名×¥7,000×90%
団体会員会費	729,600	718,200	63件×¥12,000×95%
賛助会員会費	171,000	171,000	9口×¥20,000×95%
外国会員会費	410,400	405,600	195名×(30\$×¥130-¥1,300)×80%
購読料	1,385,280	1,365,840	
国内	720,000	720,000	100件×¥12,000×60%
国外	665,280	645,840	115件×(72\$×¥130)×60%
Back No. 収入	250,000	200,000	
広告料	100,000	120,000	
著者負担印刷代	850,000	850,000	
学会補助金	2,040,000	2,040,000	
雑収入	350,000	350,000	
入会金	45,000	30,000	
会誌発行引当金戻し入れ収入	510,000	510,000	
計	12,385,280	12,430,640	
前年度繰越金	2,732,192	3,290,526	
合 計	15,117,472	15,721,166	

支出の部

科 目	62年度 予算額	63年度 予算額
会誌発行費	7,000,000	7,500,000
名簿作成費	0	0
編集費	800,000	800,000
会誌発送費	580,000	580,000
役員会合費	20,000	20,000
年会費	400,000	400,000
シンポジウム費	120,000	120,000
消耗品費	20,000	20,000
通信費	600,000	600,000
諸印刷費	300,000	300,000
人件費	0	0
交通費	90,000	90,000
業務委託費	1,900,000	1,900,000
什器備品費	30,000	30,000
協賛金	20,000	20,000
雑費	400,000	400,000
予備費	100,000	100,000
会誌発行引当金	510,000	510,000
名簿作成積立金	100,000	100,000
計	12,990,000	13,490,000
次年度繰越金	2,127,472	2,231,166
合 計	15,117,472	15,721,166

日本魚類学会細則

(昭和63年3月31日改正)

1. 事業に関する事項 研究発表会を毎年1回開催する。会誌は当分の間、年4回発行する。
2. 会費に関する事項 会費は年額下記の通りとする。但し、名誉会員からは徴収しない。国内個人会員7,000円、国外個人会員30米ドル、団体会員12,000円、賛助会員20,000円以上。
3. 入会に関する事項 入会は日本学会事務センター内の学会事務所に入会申込書を送付し、入会金(国内1,000円、国外5米ドル)とその年度の会費を納入することによって完了する。なお、入会申込書は必ず郵便で上記の学会事務所に請求すること。
4. 選挙に関する事項 会長選挙において最高得票者が複数の時は、それらの者を被選挙人として評議員による再投票を行う。評議員選挙において、下位当選者にあたるものが複数のため当初の定数を越えるときは、その定数にかかわらず、全員当選とする。

会 記・訂 正

5. 会誌の発送に関する事項 会誌の発送は会費切れと同時に停止する。
6. 会員は転居、転職などを事務所に報告しなければならない。
7. 地区の構成は以下の通りとする。北海道地区：北海道、東北地区：青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島、関東地区：茨城、栃木、群馬、千葉、埼玉、東京、神奈川、中部地区：静岡、山梨、長野、新潟、富山、石川、岐阜、福井、愛知、三重、近畿地区：滋賀、京都、奈良、和歌山、大阪、兵庫、中国・四国地区：岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知、九州・沖縄地区：福岡、大分、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄。
8. その他 本会の事務所は当分の間、次の場所におかれる。

庶務・編集 東京水産大学魚類学研究室内
〒108 東京都港区港南 4-5-7
電話 03 (471) 1251

会計・会員 日本学会事務センター内
〒113 東京都文京区弥生 2-4-16
電話 03 (817) 5801
郵便振替口座 東京 9-55247

販 売 日本学会事務センター事業部
〒113 東京都文京区本郷 6-16-3
幸伸ビル (2 階)
電話 03 (817) 5811
郵便振替口座 東京 6-92052

昭和 63 年度日本魚類学会シンポジウム企画案 硬骨魚類の雌雄性

日 時：昭和 63 年 10 月 7 日(金)
午前 10 時—午後 5 時 (予定)

場 所：東海大学海洋学部

コンピーナー：(未定)

話題提供：

1. 生殖巣の形成と性分化 濱口 哲 (新潟大教養)
2. 雌雄性と性染色体 小島吉雄 (関西学院大)
3. 精巢分化とHY抗原 長井幸史 (福井医科大)
4. 非機能的雌雄同体現象 (幼時間性現象を含む) 高橋裕哉 (北大水産)
5. 機能的雌雄同体現象 (雌性先熟雌雄同体現象を中心に) 日置勝三・鈴木克美 (東海大)
6. 機能的雌雄同体現象 (雌性先熟雌雄同体現象と雌雄同熟現象の接点) 小林弘治・鈴木克美 (東海大)
7. 機能的雌雄同体現象 (野外調査における雌雄同体性の判定と問題点) 中園明信 (九大農) (企画 東海大学 鈴木克美)

日本学術会議だより No. 8 (昭和 63 年 2 月)

日本学術会議は昭和 62 年 11 月 21 日に日本イタリア京都館ホールで、また 11 月 28 日に本会議講堂で昭和 62 年度公開講演会を開催した。テーマはそれぞれ「ハイテクと人類の将来」、「情報化と国際化」で、各界各層より多数が聴講し、成功裡に終了した。

本会議では諸外国との学術交流を目的として、昭和 58 年度から毎年 2 か国へ代表団を派遣しているが、62 年度は 11 月 7 日から 15 日まで連合王国へ、12 月 1 日から 5 日までシンガポール共和国へ、それぞれ会長または副会長以下 7 名の会員を派遣した。今回の交流の視点は「学術研究の国際性重視と国際的視野の確立」で、活発な情報、意見交換が行われた。

本会議は昭和 62 年 12 月 7 日に本会議講堂で、また 12 月 11 日に大阪ガーデンパレスで登録学術研究団体等との連絡協議会を、それぞれ東日本の団体、西日本の団体を対象にして開催した。第 103 回総会で採択された勧告等の内容紹介や、第 14 期会員推薦手続の詳しい説明などが行われ、活発な質疑応答があった。出席者数は、12 月 7 日は 339 団体 339 名、12 月 11 日は 58 団体 58 名であった。

訂 正・Errata

魚類学雑誌 34 巻 4 号に以下の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
Japanese Journal of Ichthyology, 34(4), Arai et

al.: page 515, right column, 2nd paragraph, 7th line, read "National Science Museum" for "Natural Science Museum."